
「頭蓋外内頸動脈狭窄症におけるエフェロサイトーシスの影響に関する研究」に関するお知らせ

このたび、当院で診察、検査、手術を行った患者さんの臨床データを用いた以下の研究を実施いたします。

本研究は、埼玉医科大学国際医療センター臨床研究 IRB の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、残余検体やカルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2012年4月1日から2024年3月31日の期間に埼玉医科大学国際医療センターを受診し、頸部内頸動脈狭窄と診断され、頸動脈内膜剥離術を施行した患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

頸部頸動脈の内膜に発生したプラークを組織学的に評価し、臨床像と比較対象します。薬剤への抵抗性、感受性を検討し、今後の薬剤治療の発展を目指します。

3. 研究期間

臨床研究 IRB 承認日～2025/12/31の期間を予定しております。

4. 利用または提供の開始予定日

研究実施許可後から、約1か月程度

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

患者様のプロフィール(年齢,性別,発症様式,術前ADL(mRS),術前抗血小板療法,術前スタチン療法,頸動脈エコー所見,CT所見,MRI所見,術中顕微鏡下でのプラークの肉眼的性状,予後(mRS))をデータ抽出します。調査にあたっては個人情報に留意し電子カルテ上の診療情報を参照します。

患者様の摘出されたプラークを免疫染色し、CD47を発現していることを同定します。CD47の発現程度を層別化し、これらを上記プロフィールと照らしあわせ解析を行い、CD47の発現程度に関わる項目を検討します。

この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学国際医療センターにおいて、研究責任者である寺西亮雄が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

頸部頸動脈狭窄と診断された患者さんの検査データおよび診療記録等を用います。また頸動脈内膜剥離術を施行された患者様の摘出検体が永久組織としてホルマリン固定され保存されておりますので、そちらを免疫染色し用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

研究責任者	埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科	講師	寺西 亮雄
研究担当者	埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科	講師	寺西 亮雄
研究担当者	埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科	講師	栢原 智道
研究担当者	埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科	講師	武 裕士郎
研究担当者	埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科	准教授	鈴木 海馬
研究担当者	埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科	教授	栗田 浩樹

4. 試料・情報の管理責任者

【埼玉医科大学国際医療センター】 病院長 佐伯 俊昭

お問い合わせについて

ご自身の検体やカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学国際医療センター 脳卒中外科 寺西 亮雄

住所：〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

電話：042-984-4177（土日祝日を除く 8：30～17：30）

○研究課題名：頭蓋外内頸動脈狭窄症におけるエフェロサイトーシスの影響に関する研究

○研究責任（代表）者：埼玉医科大学国際医療センター 脳卒中外科 寺西 亮雄